

2019(平成31)年度 法学類演習シラバス(掲示用)

授業科目名: 法理学演習	担当教員名〔ローマ字表記〕: 足立 英彦〔ADACHI Hidehiko〕	
曜日・時限:	対象学年: 3・4年	募集人数: 12名
授業の主題・目標: 法理学・法哲学を理解する。		
<p>授業内容:</p> <p>法理学(法哲学)とは何なのでしょう？ 大学で法理学を教えるという仕事をしているため、法理学の説明をしなければならない場面は多々あるのですが、正直に言って一度も満足に答えられたことがありません。自己紹介などで一般の方に説明する際には、おそらくワンフレーズ程度の答えしか期待されていないため、「個々の国の法律ではなく、各国の法律に共通する理念とか概念とか仕組みとか、そういったものを研究対象にしています」と答えますが、「へー、難しいことをされているんですねー」という返事をいただいて終わり、そのあと話題が広がらない、というパターンを懲りずに繰り返しています。</p> <p>誤解を避けるために言っておきたいのですが、私が考えるところの「法理学」は明確でして、それは4単位の講義で毎年説明しています。ただ、私の法理学は他の学者の法理学と必ずしも一致せず、そのことは実は他の法理学者にも当てはまり、結局のところ日本の各大学で行われている法理学・法哲学の内容は担当者によって千差万別となっています。</p> <p>2019年度の法理学ゼミでは、そもそも法理学とは何なんだろう、というテーマの下で、皆さんと一緒に学んでいきたいと思えます。なるべく平易な本を選び、ゼミでゆっくり読みながら、議論もしつつ雑談もしつつ、多様な法理学の一部だけでも皆さんと共通の理解に至ることが目標です。</p>		
教科書・教材: 長谷部恭男『法とは何か:法思想史入門【増補新版】』(河出書房新社, 2015年) レイモンド・ワックス(中山隆一ほか訳)『1冊でわかる法哲学』(岩波書店, 2011年) 上記は予定です。変更する場合はあらかじめ連絡します。	参考書:	
関連科目: 政治思想史	評価の方法: 「出席」「報告の内容」「討論への参加」「レポート」を総合して評価します。	
履修上の注意事項や学習上の助言: 年度末に3回生にはゼミレポート, 4回生には卒業論文を提出していただきます。		
<p>学生からの演習に関する質問への対応方法:</p> <p>1 随時可能 2 オフィスアワー(曜日:火曜 時間:12時~13時) 3 E-mail(hadachi@staff.kanazawa-u.ac.jp) 4 電話(076-264-5383) 5 その他()</p>		
受講者数調整方法: 定員を超えた場合は志望理由書に基づき選抜します(が、これまで定員を超えたことはありません)。		